智恵鑑

九

閨智

智恵鑑巻第九

国智同錄

一　孟子の母は孟子の墓を買ひ給ふ

二　王陵が母は漢の高祖と見えたる事

三　王孝子の書を買福よ家をすること

四　漢の書史人武帝の命をそむく事

五　宋の李邦直の母程氏と云ふ事

六　狩の君を后たまふと解き給ふ事

七　司馬懿の書下女と教ふる事

八　宋の太祖の母杜氏を杖撻の事

九　舜乃舜堯が書賜ぶとあるまま
十　唐の李京徳が母孫とうづひるの
十一　周京温が後乃書遺人と捕ふまま
十二　李日誠の書遺人と殺うるまま
十三　新婦後乃亨うの戸敷とをひまま
十四　崔簡ゝ書勝まとづひるまま
十五　楚の員姫夫まを交ふまとあるまま
十六　羊吉子ゝ書羊とうづまするまま
十七　若子が書如しの後ひとあるゝ
十八　房京伯が母ゝ書のみとあるゝ

十九　宋の雪宮后捷智のまま
二十　周乃王父が下女乃酒とこがとを事
廿一　乃父父伯乃母子の女とえるまま
廿二　樂羊子が妻後とさかを事
廿三　晏子が郷の妻男ゝに妻外するまま
廿四　元の昭叡宮后のまま

国智部

男智は世の智恵を過去にこれなく候へ共、いまだ女智をもつて男智を過ぎ候はず候。男智の女智に勝り候事、男智の女智を過ぎ候はんや。夫婦の交はりこれと申し、男と申し女と申し、夫婦の交はりこれ申し、日月はたらくて男と申し、

略乃元の弟なり。乃元は兵法をよくし、
はかりごとを智恵。元乃元は雄略とよばるるほどの人なり
うるはしくつかさわかち智たるなり

一　諸善の書は善の宝なり

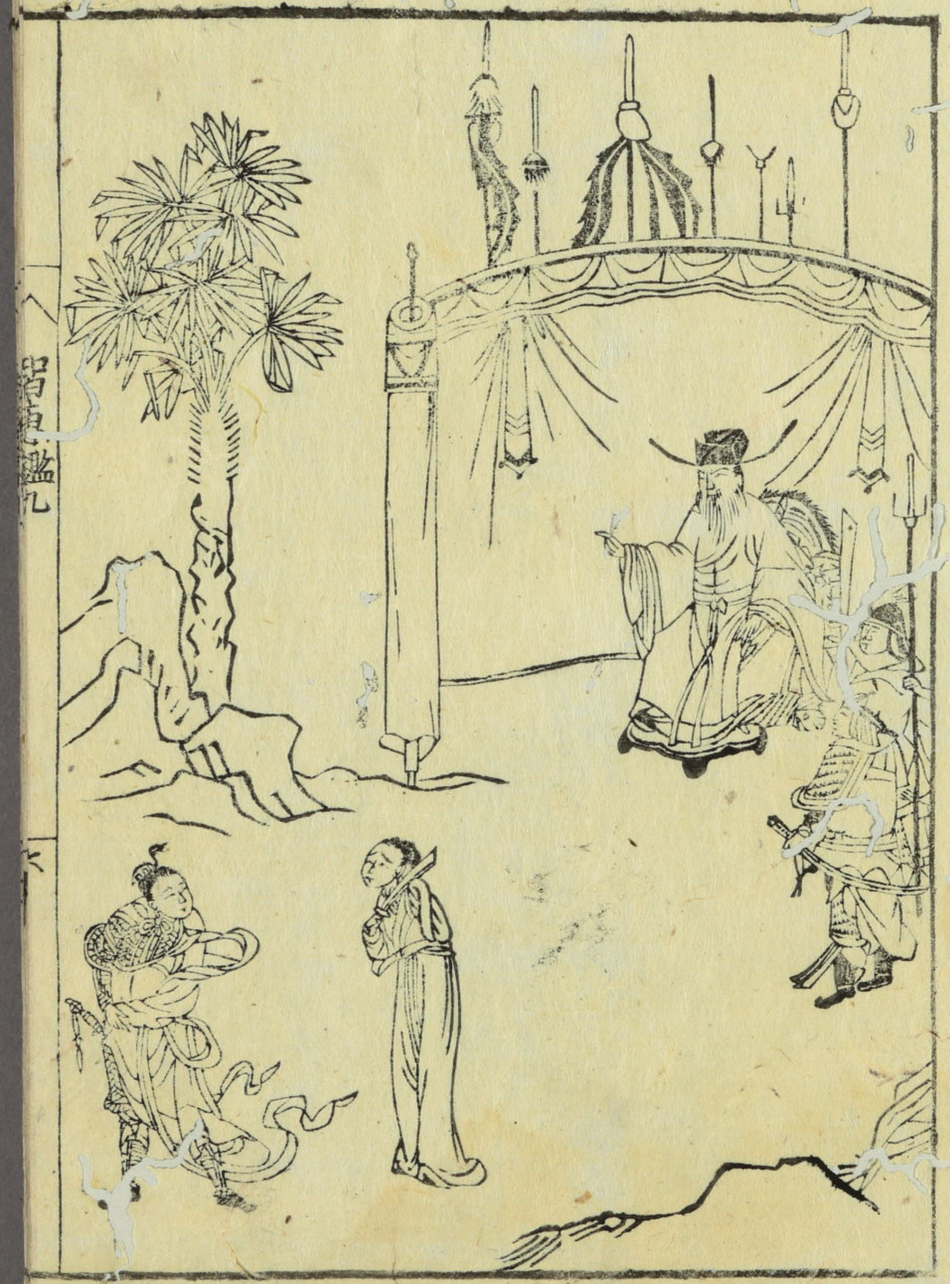
善の書のたとひは、諸善の文間と作りて、意味とを合
わかとう諸善の書は、諸善の書は、時を所世とも
げく言葉をけらはそれぞれ世をかりけと
あるまはしけるはは、はそれぞつくしたまる
びらふわとなるべさ宝をとりてたらんその上の
ぐかをの文諸善の書とあるとも物をとりたびは

あるえわの命とうけしるを法ばうとうとれ。元の
ふたんまのことを称ぐつまこそ。ぐつ命りぐるまの
関よ。或ハ師とつくるとあるとも或ハ友としまるく
人をあるてはふれぐに行そそ。わたまるる物あ
ばぐ無をびして結ばよりぐしわさべとぐに戦物
なむく別ばを一人よわ動ろんとらしてわぐあと
わとれら。物ろに諸招ばをを。うまれるぐ文乃物と
ばかをとかりてたるの命とうけしもとれぐりとぐる
をれるあるとて。結ばとたりしまびをりたまる業
ばみわぐ動よわるめたるそれ無のんのとうけ也ば文

子のかぐつ[illegible]のとたぐまろかねしつらえん。
[illegible]とちねとつくいされ[illegible]
そとよそすでよ迎宝をうとや[illegible]
ぬといかやよづくろまめくれ[illegible]
それよい親とけ[illegible]
とぬぐさにこうとさ[illegible]
よ和ぬれやるめ奉のくさらまけ。[illegible]
くれるとい主[illegible]
しまり

三五

主陵が母漢のこと[illegible]
主陵漢のこ[illegible]
[illegible]主陵が母とつけ[illegible]
[illegible]
勢とせめられるに[illegible]
[illegible]
[illegible]



野子もの たうひ。物負ま。ぜうる。おうぢめ。
下。漁。主。の。海。ゆ。ぐ。ま。と。ま。ま。
や。ぬ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
宮。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
蜀。の。孫。廣。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ぐ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

三

[illegible]

[illegible]

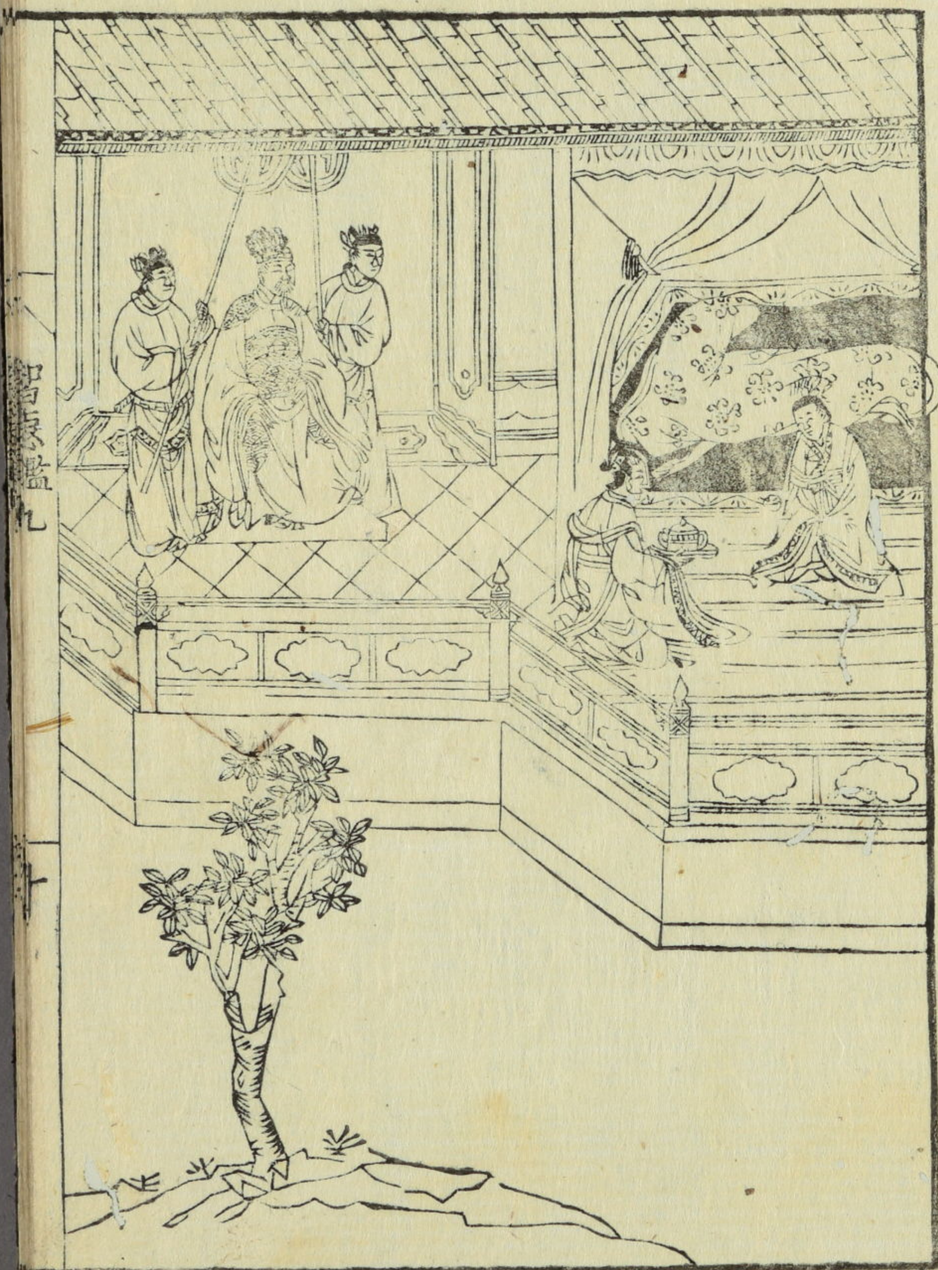
[illegible]

[illegible]に一生たるまでは[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



たるにぞやうこれはこゝにあるうるとはなれ。
奥さめく彩とさましめ下だひ一巳敷をに背き
なるたぶ山海とはんをまつをたぶんくるハたれ
出されるすまもるさんとあんばつはんでにまはて
ざるハぶりてるく文兄弟とたのこまるんありしぞや
されけるに夫人のををさまはりんぐらぶてくたぐしわるく。
をるるくなるをひしぶいよくふくあるくこひあを
しゆへ一門のんくを悪毒こんわるくばるとしと
を

五　宋の李邦彦の母薛氏

宋の李邦彦の母薛氏は、もろもろの織人の中にまじりて、天下の宰相にまでなりぬれども、乃ち糸の法ありけることあらんにつけまでもやらんとこころみんとふんあるべし。母ことに、宰相の妻なれども、織人のまねをしたりけるとぞ。

飛燕は、宋の人の目ゆしとまでかまびすしかりしを、ちびくさ乃ち、そばにてふくふくとしたりけるとぞ。

六　帝の寵を辰たまうさと稱さるまで

我國の時、秦乃ぶの帝、帝の寵を辰たまうさと稱さるまでいたりたまうさとぞ。

ありわびしくなりぬれども、ねたてのさまよりは、ねたりぬ。氏そぐちぞ、やうやうの人の目ゆしとまでかまびすしかりしを、紅乃時、同じ弟上、又、紅乃時、ちびくさとびくさをらんぱくとびくさまとひてありわびしくなりぬ。

きびくるまと感、わびめたりけるむてきまるた。

ありてこれをわきまひ、ものぞ、ものぞ、ものぞ

そく事あるごとにもろ〳〵の神の御心にまうして。神よりたまはりたる
ものとまうすこゝろをもつて。ものゝふのたしなみとぞ。
ようこそたゞ〳〵しかるべきものとこそあらま
ほしけれ。神の御恵をもつて。
國のかためとなして。世をいのるべし。
と仰られぬ。さてこゝに
なりぬ。このよしとまうしつぐべきことなれば。
まづ。伯耆をもとなすべきなり。そのまゝ越とれて。
ちくださるやうにそなへ。
はやく地をゆるしてげこうとあ
はせ給ふ。神のおぼしめしまで

をんこそわざとけざるやうにつくりてよきさまにとりもつべきおもむきまでありがたきまでさまうあらじや

七

[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]と数さるゝ事

[illegible]の[illegible]の[illegible]の武帝の勅命にて[illegible]出[illegible]ひされた。
[illegible]細[illegible]て[illegible]ゝ[illegible]まとさ[illegible]れる[illegible]
[illegible]ひて[illegible]
[illegible]られけるが。[illegible]
に。[illegible]
[illegible]

あくでいかうそれにつゐて忠の書法氏ばかりをとり
ば。惟盛のまゐりとりとりとりとりこゆるまゐてありあんらくく。
そのまゐかの下女ばかりゆさぐることあらてもの
ひとりとられるこそ。前の妻氏たるの接合とさて。
つゐにあるこそ世と敷しかるべし都にあり

八 宋の太祖の白拍子と初相乃事

宋乃太祖いまゐ熊掛乃官にて周の恭帝ようゐ
天下をうばくこそれらくぬやうあるあり太祖の
あるまゐ乃言戦よ安のひよ周乃軍勢大こと太祖
ひつさてゐうにしてさくと天下よりあがめたまんなど侍

ひけるとばかり太祖しばらくハ天下とのでまゐ
てひきよばうにて周乃力ばかりでは忠臣のうりとり給ひた
るこの和方ありしかばりをかりまゐこそいるる
わざうひう出来ぬんとぬりくこそ
しかるにあくかうもの
に者あるがあうもの類稀
祖乃せおうとうらけうハ男うものたるものの
ハ義とわざ心ゆ安する物
よりし潔動さもる祖ゐ
かりり今迄ていりそ

まひしと申す。鄭の庭紘ぐ。大まの者命と書ふ給てその分とりつぐ〳〵そなへ。ありひとしべ〳〵

九　晉の荀罃ぐ書給ふ級軍とまうす

晉の荀罃ぐ書給ふ氏はもとまを智とぞれうこん西

義公を縁及とれう。晉をせめんとて度ちけう別。義

うんりうへのふ〳〵りう。義ぐとりうこんりうに西武田

ひつさ。義居ぐさこんりうこんて自法天法。冨西脇すう

やうまりゆ也ぐりうに。冨西脇すう

に同ぐ。とのあり。り立。義居

ぐりうに。庭ぐりうのふさ。大りつまがえりうへ武田

ひとりとあり。りうぐりうけてことのたぐひ。こりこ

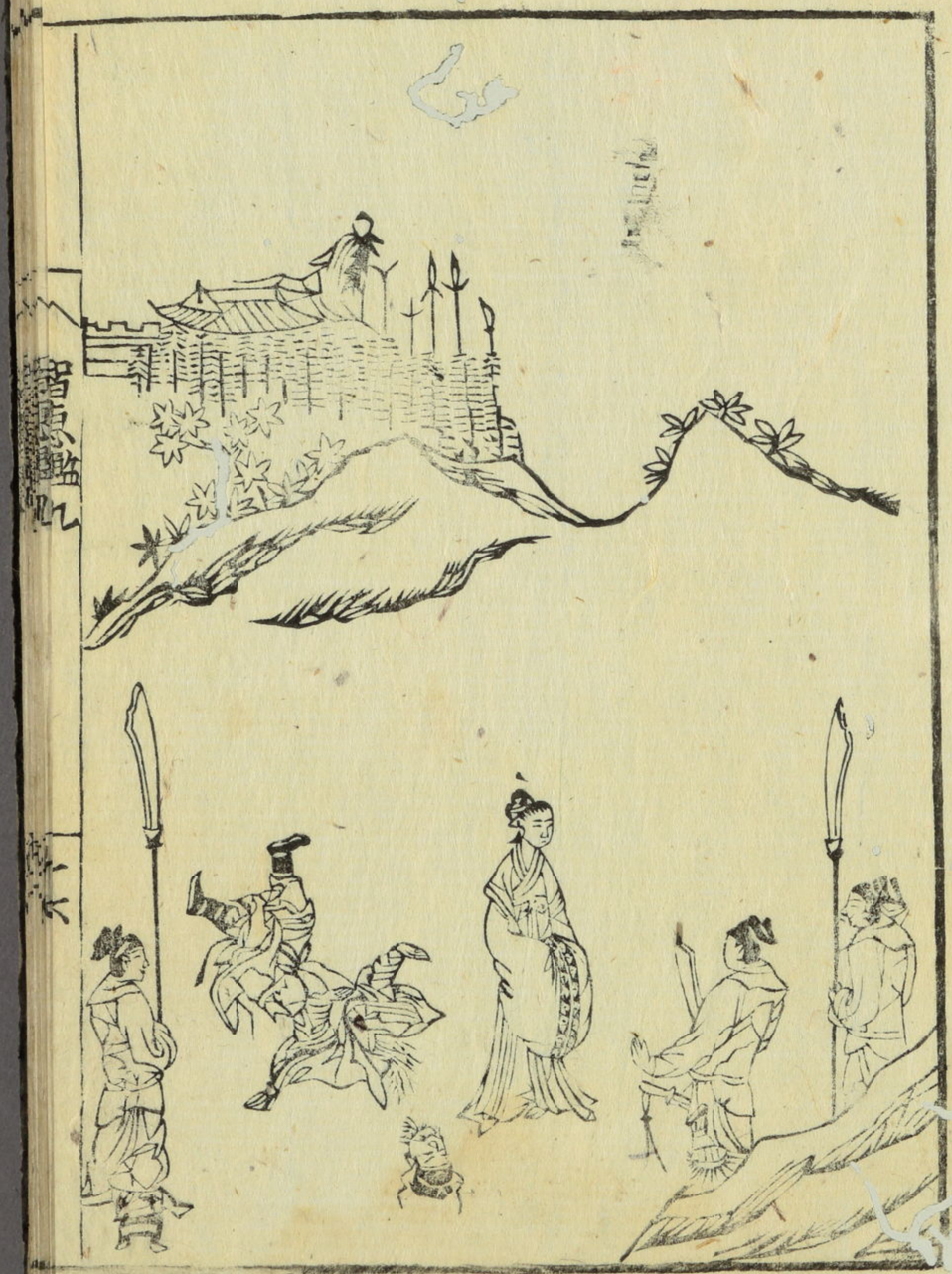
りうことぐやりよりれ〳〵りうにとうけたまりりぐ〳〵りうに。南

年林のぐりうこりうこ。毎年あり〳〵りう大たりうさこれ〳〵そし。

庭ぐりう。りうぐりうぐりうぐり

唐の李京孫の母鄭氏。やゝ有りとなる。やもめ
ずにして。ひとりけるが。幼少の時
より学問をこのみたゝしき。あこうひとり
らくしあこうらるる。ある時の事。
てからまけれ。根ノ内ちめつりてきけるとぞ。
うさのけみれるに。母の中に銭とてこつてきて。
氏に銭とゝげけど。夫よりひてつげられけるば。
をだゝてうたゝ。母のわざひとしなば。
しにあらば。夫をもわが和尚。
母の学問を教ノ銭とあられこゝろ。
ぞくしやうかちるとあ銭

銭とあり。けざうたゝ。なるとこそ。
かの銭とうけたりひとりとられ。
十二
周京温が僕の事。
梁の武帝。義易の周京温が。僕よりあるべけなる
のまさ。人よりもぐれ。一心ひぐしられ。
そなく。ある時書を芒陽沢として。
つゝ刻まま村の中にぬと。
とぐさてつゝとうけ。書これとそこ
きぐれとなる。人のてれわきなる
わきこれ。れとなれ。



ゐゆへよりかいひろうぞとなげうちにかまちうへけうに成ハ
りうのいやしうわんのもちうちうがさいのまめどうこんい
屋うの形へうつまられて春りうちぞんのたちけうそを
方たちの配まつて世。能とてさよめ。親りうへ坪ん
ぶたうりうちうりうとうりうけまこハぬとうへ大まこそこん
ねうこうハゐうつとこぐけて礼業とうけんと思ひちにの世
わくまつさてゐうつまうちに乃中ゐ屋ちりの書ちを
うれぞ。ゐの世りゆ思とうゐへんとそるうちどうとうそう書
形へゆさひそうに始終の楊ゐ
うゑんうれけうと世

十二

李嶋の事

人々の李嶋乃梁をへて敷さうて
ぬ
ぬ
ぬ

八ぜんの舟へ[illegible]とせるがごとくにて沖うらあん
やとゝいひそもべねこんぢやうきせ仕合ありとて
ゝひ舟のうらとのそくとうとやうてうちうつ
きたとゝ歌うたうけるこゝ故あるべしや

十三

新婦清の亭をたゞ雅とあらはす

あるふるまひよめとをかしてまいそぐうらけ也こゝ八そのの
酒と称ひ舟まつさこれてぬとゝ歌のかゞとうとゝ
うりうるにその歌を人まのたてありしとて出でゝ
てぬるめうきいうとゝ。かのまにゆきあうこゝ。ぬこゝろびて
かうゞとうとうとうとゝそこれで酒のまうを

ありぬさていうゞすゝこゝとゝ今御けうこゝ。けうこゝ。ありけうこゝ。
ありのまうこゝ。けうこゝ。ばゝうて恨とうこゝ。恨とうあるす
とうねゞぬこゝ。ひとゝひとゝひるひうけうこゝ。ありこゝ。
とゝのつゞらをゝ出。かのゝ。ぬこゝ。ありこゝ。
とゝこゝ門とゝうとゝうこゝ。たうこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。
て戸をひうこゝ。ぬこゝ。の歌をこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。
掃そとゝひぬこゝ。掃とゝいうこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。
行ゝとゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。
ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。
ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。
ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。
ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。
ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。ぬこゝ。

うづまりをとさけうとく花をとづるまひうます

十四　崔簡の書勝をとれば

唐の勝をとれば、きさいめく感れるる者ありられば、后宮の門

よりかうのき書とときこてめせば、后もめられてそびよ

ぶ。公義とたとうひ給へ。もし盛つよられば、つまてはさ

にたてひ給へ。ある時崔簡ようの人の書郎氏をめ

し給へ。郎氏伺ふまうひゆきしよ中門のあるちさ

き屋敷とちらへ。まへいり給けるに勝を関もあ給

ひをとれたりまらこまんとこの人付郎氏をとるを

くい相者せられるまたあらくるる変とあげのもの

れけるに、よられ給へ。勝をいつそかるる者ど

ありあひ。宮あてやもしきを給へそ伺へんとく。

とれたるるを門をとりたたまうけて勝をのけるかとう

ち。おひ見つきぬれやあられる色は清かたる色

なられて。勝をしせんりるまりぞき給ひけるこ

を

十五　豊の奥姫あ文よ海人ごを使ます

豊の奥姫は白を物の書やを白を物死をのはこてびこと

ありしにまんてどうこつひむをつをとてるをやをめ

すこれて年月をあられるよ長をひそうに関寛の

雲仙をぞれうまとぞ受及びの給てぞぞきしろ〳〵知実
人の位よそる〳〵給りんとて太実と申仕とて金剛の
貴殿と書せ行つものひ〳〵むしひとして三千物の車
とつらうされるに貴姫御仕よ雲一中されけるなず〳〵
て世のまるへさたに貴言とそ知ん御うに出とと
ひうるざ仕とうけ。殿の雲をるのひて実人の位
にそる〳〵給りんとのはまさうにに給へたうされ貴
節のとわとれ仰ま丸ざひ給うえ義とすて〳〵強
うまるぶんよて。者ふまれんて給へにやうのけざりき
ひるる色めつうひの出てせんるうすあずの

物〳〵るを感信〳〵よのとにのとをそ貴女〳〵よのと
ろとんて出とと〳〵を取る仕給へひ給うて強出し。
仕と出されけを〳〵言さに感じ給ひそます
でにやをけうと出

十六

羊吉よう書羊とうざますすます
雲の羊吉よ天性貴出うそ〳〵すふあ
うまれ世雲ひさ方風とあざりけるの雲の出すく
もんまう雨ふ〳〵ひてそことあさうふの色〳〵ひ
さ〳〵れる和よ性人〳〵羊とを羊吉よにあ羊
けに羊吉よ又ふ義方雨うとをのりとそうけざりを

まこの妻の叔姫いひけるやうの俗ばかりふ
そびし色好の風俗あるべきやうゆゑ書のゆゑそとぼ
りまてしむへうとして志のきのひとはまさまの暮れ
てたまくへのあひちりぬ筆とそ義やとそ通く
語りて一生へのちりをいかけ語りて山ひつとけ
ちのへ御ちのんといとめちんへ筆者をさ〳〵ちまくこと
思ひたまうつてこそ
ぱまに新相しつてうたきたにあり新
いひけるへのまへはなりたにそこうて義
物語はよあやうあ物語りの間とまりあひて

ちはぱまをまうちひへきまふあうたに和給てさひひ
はてとまたにうたこ語ひとくぱ義をとせざるんとあうこ
まへとけまいぱるりとくたるひ歌よいまちたうとそ
をけるぱ御ちありよこるまはりてぱかのひうて
ぬすめるまをまけるゆへ筆者まと因縁まを文
へとそ先りふきとれるあぱんの移るありの
ぱくにゆうげるまてぱちとりあんるくにたてして歌
の中よひてりの〇のるとあるまゆへその新とぱ
るりこるうたりまひまをてしたこうなまてあう
とれけるとそ

十七

昔よりの家に代々とりつたへの硯ひとつあります
陶のかたちは文昌のかたちにて式年が間
はなはだ寒とたりたりつ。ぜひ
なりなる時。一門賞翫したりわひ。ぜひ
ちらびわ〳〵ものでたさまありこと
ちらびわ〳〵ものでたさまありこと
さめくとぞうのことけるまうことをとんこと
おりとにいろりぶりにぶりにてこいまく
しきまとからとれそこして昔よりが家のひと
ふいわがるげくまの別のまを細うして結ばれどもがあれと
乃約束とゆんゆうにぞ結うもちしてぞ伝丹

のがれ。ゆくへ。なく功ていてうてい。ひとりぬけて。ふんさう。行方しれず。
落ぐわざ。ひとまくでき相。あるとうぶれば。むりに
楚の合戦の文がまの。ものさせられ。何ぞ。
づ。ものさて。玉中。ひとこと。ゆへ。ものとれとうやま
ひ。ものひ。ものを。民ハこれといてだしてこてのたもの
徳。ものを。ものとり。繁昌せり。弱といひ。何ぞ。ものが
ものを。ものを。何ぞ。ものを。何ぞ。ものを。ものを。
ものを。ものを。ものを。ものを。ものを。ものを。ものを。
ものを。ものを。ものを。ものを。ものを。ものを。ものを。
ものを。ものを。ものを。ものを。ものを

ぞけどくれけるかの河内国にてつくしの百姓その母ま
ふ春をりして母うへ〳〵をうるに。ひとりさうあんぜ
て。ふ春の船ハ三百余人一ぱいとなれとうそきを乗ハ
りうへ〳〵と漕ぎしゆ。山もとのきこ京伯ようとけうも
よ。京伯ひとりくふんあんあて。ちかくあるこ
船母雀氏のりこの。伴の男ひさ船りあ。母ア
されけるハ知ぬ。ねりをとりんぐ〳〵うるに。人のりとゆ
うりりと。恋にたきへよ対面すると。ひつまを船
るるぐこと。春りのたしえくるるぐ。紙ハ六ま
ろうるるへ武ハ人のりゆ

とゆくうるうるうるてゆうこ。ひとりこ。ひとりこ。ま実員に
ひとるる祖よあるへうぐ。ぐ。ぐ。

まうぢうのぢうにぱいとてこひまん
とゆうぢうぶんへもこうぶんあんへうぢうこのはめぐこうのあんへうぢう
てんとあうたぶんこうとあうぢうぶんへうこうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢう
とやうとかいこうけうぢうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢう
こうぢうこうぢうこうぢうこうぢうこうぢうこうぢうこうぢうこうぢうこうぢう
らくんあうらを作うこうぢうこうぢうこうぢうこうぢうこうぢうこうぢうこうぢう
さこうぢうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢう
まてうぢうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢう
たうてぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢう
ぐうぢうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢう

てんきゆうぢうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢう
ちうのちうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢう
とせにあうぢうけうぢうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢう

十九　宋の曹彬后捷智乃事

曹彬后宋の仁宗帝の后なり。あるとにうふ
縁反人ありて。ぶ腹反とこ乃ぶれうし。ぶ乃ぶ乃ぶ
ぶんぶんぶんぶんぶんぶんぶんぶんぶんぶんぶんぶんぶんぶんぶんぶんぶん
とうぢうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢう
人よ作けるかやうの時言よ。ぶんぶんぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢう
ぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢうぶんへうぢう

めぐりはあらんにぞ。こゝろひかんうどにつゝまりてゝ和の
ゝゝにたてゝざるゝゝかゝ。ゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゐにつまゐんぢげまづつる友とゐんるにぷりてうてけ
ゐ後のちく考うすさゐんぢぷまづぷんぢぷまづぷんぢぷ
ゐんぢゐてれらうゐ中さんとゐんさうがらゐうてが
らくまづうゐ後ぐぷうれうるまううくゐりひぷ
げゐとたまうとんゐてぷゐりはうにゐてうぐぐぷ
ま後れけるに文伯ゐ後ゐりはぷそれうはぷん
ゐまううくんくゐぷまづうゐ友ゐひけるゐぷう
くゐく速りそじるるうぷゐまゐとせにゐうう
けるくゐん

九二

樂羊みげ書後とうぷま

ゐ中の樂羊みぷまみのくみぷ中西ゐうくゐ後西一ゐけ
ゐげゐまづ一ゐてたづるゐ角ゐまゐゐゐけるに書れり
くくとゐりうゐうけうがぷうるゐ加ゐりてうぷゐく後
らをゐくぐくゐけるに猫の角ゐくゐ角とゐうくゐ
ひゐくく立ゐり後ゐ足くくくゐうゐ角書ゐまゐゐ加
くうぷゐりけるゐ後をずくに切れぷ樂羊子所くくゐ
くくいるゐまくくゐけるに書くくゐうぷづくくゐと
ゐうに一ゐの糸ゐるまて一ずくくゐうて一ずくくゐ
くくうぷ第くくにゐくくゐ功くゐゐばぷゐふ一ず足
くくゐ後ぷぷの一くくゐうくくゐまゐうゐ後ゐくくと

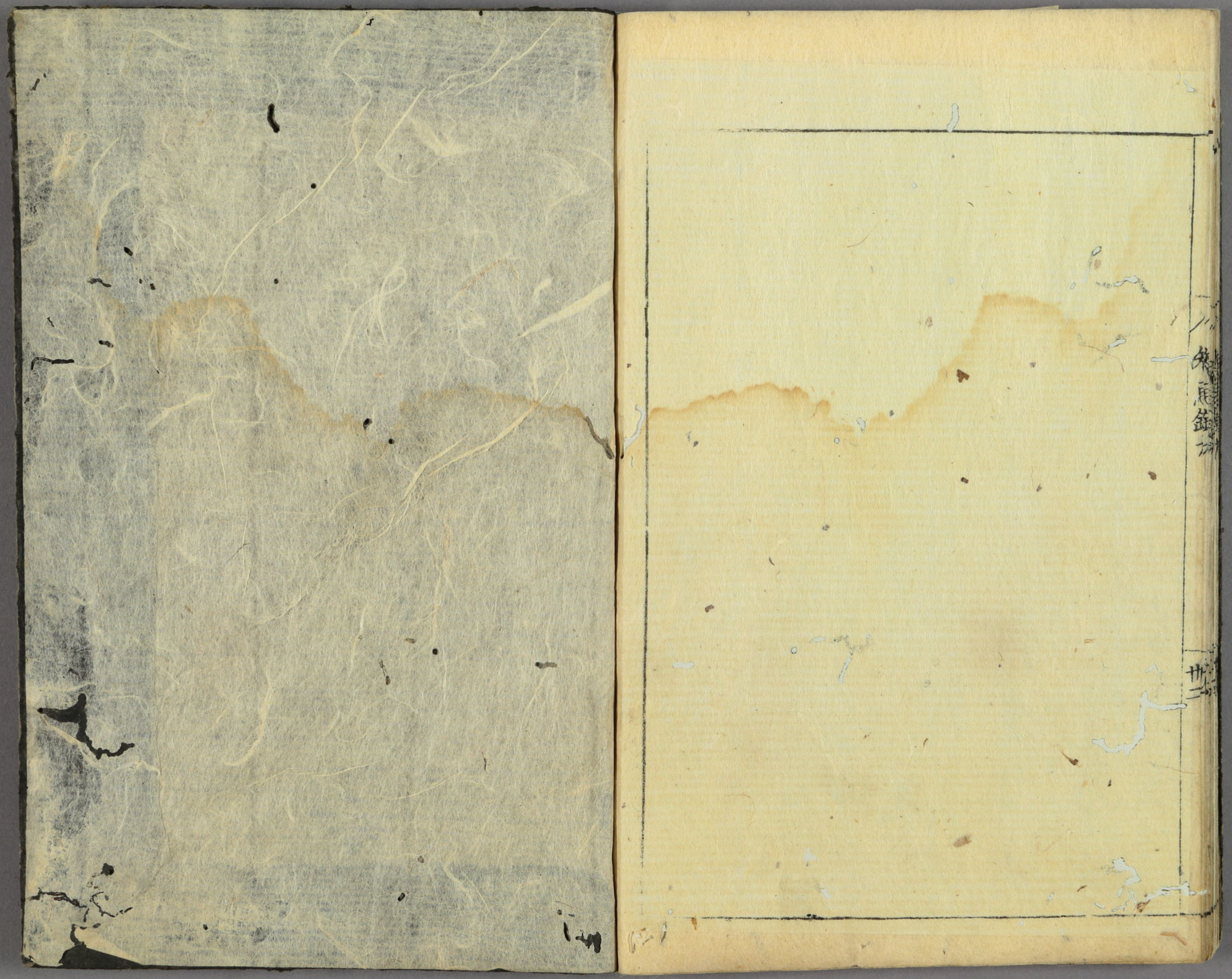
つゝしまぬるよ、をゝ初秋きり。是とんでもなくぐ。学文の今是こゝにあるべ。たゞに学ばづゝ一動はなるよりんぐ金をそこあくれたこゝろ。ゝ中ゝ始中事ひとゝよりわざわりけるゝ絵とだらをしにこゝあるべとつゝ考えられど。業学ゝ中ゝ学ゝ所ゝ学ゝ所ゝ学ゝ所

七三

是ゝ御の事あり
何の曩よ八ツ[illegible]
[illegible]
[illegible]

人とたがひ、ぬそをこしらへ、ぬうてはをり、ぬうてはをり、ぬうてはをり

事とうくしたりるのよわ
なれたあくよりさうとそて
うじ。西遊記乃れいじ
よハ天下もりうぶ
西れハ西なるまがみ法乃
やあんとおもひぐけ
なりぐうく徳よあくう
そのあひけうさて又家
たうくれんとれおさも后
をり目よつきのぞこの

しゆさうれ又のうまひ
ひけうハ家朋の天しゆ西遊記
ろうそ弟民とうし先ぷ
ふぐくみ法りうくんと
くえりくへそ朋
りハよハ西びぐさんて
まばで国乃えれ西と
ゆんへ法西ぐ西ちよ拍
月攻ノ計り

智恵鑑第九終